



日韓問題に関するライシ +

ウー大使の内話

昭和37. 4/7

アメリカ局北米課

昨ノ6日夜、デイ郵政長官を主賓とするライシ + ウー大使の晩餐会において、レンハート公使は、西堀に対し「今日ライシ + ウー大使が韓国問題について池田総理に面会を求めたところ、外務大臣と会談するようになるとのことであるが、どのような理由でそうなつたのか、本当のところを伺いたい。」と質問した。先方は、今回のアレインジメントについて、韓国問題に関し、総理と外務省との間になにか考え方の相違でもあるのではないかと勘ぐり、あらゆる意義を讀み込んでいたようである。そのことは、レンハート公使が質問をするに際し *Be careful and take your time in answering my question, since your answer might involve the position of the Japanese Government.* と冗談混りにいつたことからも窺える。)。

よつて、西堀より「答えはきわめて簡単、なにも考えるには及ばない。ライシ + ウー大使の意

向を事務的に大平官房長官を通じて総理に伝えたところ、総理は、本件については外務大臣に会つて貰つた方が適當と思う。特に今、ライシ・ウー一大使が総理に韓国問題で会つたなどということが万一洩れでもしたら、国内的に非常にまずい、との意向を示されたので、そのように取計つたまでのことである。しかし今回のこととは別に、一般論としていえば、米大使が外交案件について外務大臣の頭を越えて総理にしばしば会談されることは好ましいことではなく、国民感情からいつても、米国に対し決してよい影響を与えないであろうし、米国のためにもとらさるところである。従つて今回の総理の指示は、当然、かつ、適切な措置として自分は喜んでいる次第である。」と答えておいた。

ライシ・ウー一大使は、部屋の一角で話し合つていたわれわれ二人に *What's the secret talk?* とてジョインしてきたつたところ、レンハート公使は上記会談内容を逐一繰返した。これに対し大使は、「一般論として自分も外務大臣の頭を越えて総理には会

おぬ方がよいと思ひ、そのように努めている。しかし韓国問題については、池田総理と朴議長との会談内容について、朴議長の方に希望的観測をも混えて誤解があつたのではないかと思われる節もあることでもあり、自分としては総理に直接会つて篤と話しをしようと思つたのである。」と述べた。よつて西堀より、「日韓問題については、自分は担当官でもなく、よくは知らないが、外務大臣は総理のフル・プレッシングをえて、日韓交渉を自らやられているのであり、かつ、貴大使との会談は逐一総理に報告されるのであるから、明/7日経済問題で外務大臣と会談される際、韓国問題について篤と話し合われたい。」と述べた。

ライシ・ウマー大使は、「自分の最大の関心事は、一体日本政府はいつ日韓会談を再開するつもりであるかということである。米国としては、emotionally に韓国に対し非常に特別な感じを持つている。多数の米国将兵を韓国のために失つたという事実は忘れることができないのである。池田総理が朴議長にいわれたことを、先方が勝手に解

釈しているのかも知れず、その点は先方に落度があるにしても、自分としては、日本は大国の襟度をもつて日韓交渉に臨むべきであると思う。日本

が7千5百万ドル（大使は7千万ドルではなく、繰返し7千5百万ドルとの数字を挙げた。）との数字を固守し、

韓国の態度が変つたら交渉を始めるといふ方針であるならば、永久に交渉は進展しないであろう。韓国側としては7千5百万ドルという数字では怒るのが当然であり、この数字に関する限り自分も韓国側に同感である。」と述べた。

レンハート公使は言葉をはさみ、「かつて自分がワシントンにいた頃、佐藤現通産大臣は自分に対し、韓国問題は適当な金額を政治的に決定し、後でこれに適当な理屈をつけてもつともらしくするのがよいのだと述べたことがある。自分も全く同感である。請求権とかなんとかやかましいことをいつて積み上げて行くというような方式では、とても話がまとまるまい。」と述べた。

西堀より、「大使は、日本側数字では先方が怒るのが当り前といわれるが、それでは韓国側の

extravagant な要求額をどう思われるか、大使は金額についてなにか心に描いておられる数字ありや」と質問したところ、ライシ・ウー大使は、「勿論韓国側の数字は extravagant である。しかし自分は公平にみて、日本は少なくとも2億ドルという数字を出すべきであると考えている。ともかく日本は韓国に対し、大国としての態度を示してやるべきである。」と答えた。よつて西堀より、「明日の会談で十分に外務大臣と話し合われたく、経済問題で明日の時間が不足であつたら、別途また会談をアレンジするよう努力すべし。」と答えておいた。

なお、大使がジョインする前の上記レンハート大使と2人だけの会談において、レンハートは、「日韓交渉再開の時期につき、自分は5月末までにはとても再開できぬであろうとの判然^{おき}であつたが、ライシ・ウー大使 (that hero standing over there who is optimistic in most things と大使を指さしつつ言及した。) は5月末までに再開できるとの判断であつた。自分の方が正しかつたようだ。」と述べていた。